

(2) 病原体等のABSL分類

分類基準				
動物実験におけるABS L分類は病原体等のBS L分類に基本的に対応するが、病原体等のBS L分類とレベルが異なる場合がある。これらの病原体等を含めてABS分類を以下に示す。その他、本規則に定められていない病原体等については、十分なリスク評価を得るまで個別に考慮するものとする。				
ABSL	病原体等			
	ウイルス及びプリオン	細菌	真菌	寄生虫
ABSL1	なし	なし	なし	なし
ABSL2	Bovine spongiform encephalopathy (BSE) ¹⁾	<i>Salmonella</i> (BSL1及びBSL3を除く全血清型) ¹⁾	<i>Pneumocystis carinii</i>	<i>Aspicularis tetraptera</i> ¹⁾ <i>Spironucleus muris</i> ¹⁾ <i>Syphacia</i> spp
ABSL3	Creutzfeldt-Jakob disease (CJD) Ectromelia virus (Mousepox virus) ²⁾ Lymphocytic choriomeningitis virus (LCM) Monkeypox virus (三種) Mousepox virus(Ectromelia virus) ²⁾ Murine hepatitis virus ²⁾ Newcastle disease virus ²⁾ Sendai virus ²⁾	<i>Mycoplasma pulmonis</i> ¹⁾ <i>Streptococcus zooepidemicus</i> ¹⁾		
ABSL4	Macacine alphaherpesvirus 1 (Cercopithecine herpesvirus 1) (Bウイルス) (三種) ³⁾			
備考	1) ウシ型, ヒト型のprion遺伝子を導入・発現させた遺伝子改変マウス及びサル類にBSE prionを感染させる場合は, ABSL3とする。その他の動物prionについては, 別途考慮する。 2) サル類での動物実験はABSL2とする。 3) 自然感染個体の扱いはABSL2とする。	1) サル類での動物実験はABSL2とする。		1) ABSL2に指定された寄生虫を用いた実験を行う際は, 完全な尿尿処理を行い得るケージを用いて排泄物の処理を行うとともに, 実験終了後はケージ及び実験室が熱処理できる施設で行う。